

生物多様性に優れた自治体ランキングについて

- 平成28年11月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング㈱が「都市の生物多様性指標（簡易版）」（H28.11 国土交通省）に基づき、665自治体（市町村）を評価した。
- 「都市の生物多様性指標（簡易版）」（H28.11 国土交通省）は、自治体の緑地等の割合や行政計画への住民等の参加状況など7つの指標で構成されており、今回の評価では、
 - (1) 住民等の参加状況など4つの指標を統合した「行政の取組状況」
 - (2) 緑地等の割合など3つの指標を統合した「生態系の状況」（自然の豊かさ）の2つの側面からランク付けされている。
- 神戸市は、(1)「行政の取組状況」を示すランキングでは、次の評価項目の統合評価により、全国1位（埼玉県戸田市、川崎市、伊丹市と同点）とされた。

評価項目（国土交通省の7指標のうち4指標）	神戸市の評価※	
① 法令等に確保されている緑地の状況 ○ 国土交通省の示す算式で評価	a 評価 (4点)	統合化の結果、 全国1位 (16点満点中 14点)
② 動植物種の状況 ○ 動植物調査の継続性、実施頻度等6項目を、アンケートを基に評価	c 評価 (2点)	
③ 行政の生物多様性取組状況 ○ 生物多様性の確保に関する目標の有無、部局間の連携など14項目を、アンケートを基に評価	a 評価 (4点)	
④ 行政計画への住民等の参加状況 ○ NPO等との連携による活動など8項目を、アンケートを基に評価	a 評価 (4点)	

※「a評価」は調査対象自治体の相対評価で上位5%以内、「c評価」は同20%以内

上表の評価項目①（a評価）では、

- ・ 風致地区など、制度で守られている緑地の比率が高いこと

評価項目③（a評価）では、

- ・ 動植物の生息・生育状況等に関する独自調査の実施（→レッドデータフォローアップ調査等）
- ・ 生物多様性の確保に関する目標の設定（→生物多様性神戸プラン）
- ・ 部局間の連携（→外来種対策プロジェクトチーム等）

評価項目④（a評価）では、

- ・ 住民等の意見を計画に反映する取組（→NPO等との意見交換会等）
- ・ 生物多様性に関する環境教育（→学校との連携授業、シンポジウム等）
- ・ NPO等との連携による活動（→アカミミガメの防除活動等）

などが評価されたものと考えられる。

- なお、(2)「生態系の状況」（自然の豊かさ）を示すランキングでは、神戸市は665自治体中84位（政令指定都市の中では広島市に次いで2位。札幌市、京都市と同点。）であった。

参 考

1. ランキングの概要

- (1) 評価主体
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)
- (2) 公表日
平成 28 年 11 月 30 日
- (3) 評価対象
平成 27 年度時点で「緑の基本計画」(都市緑地法に基づく法定計画)を策定していた 667 自治体のうち、国土交通省が定めた「都市の生物多様性指標(簡易版)」の指標値の収集が可能であった 665 自治体

2. ランキングの方法(手順)

- (1) 「都市の生物多様性指標(簡易版)」(H28.11 国土交通省)に基づき、7つの指標(表1)をそれぞれ数値化(絶対評価)
- (2) 数値化した7つの指標ごとに、5段階で相対評価し、採点

	評価	点数
上位5%以内	a	4点
10%以内	b	3点
20%以内	c	2点
40%以内	d	1点
それ以外	e	0点

- (3) 相対評価により採点した各指標を2つの側面から統合し、ランク付け

■表1 評価指標の内容

	指標の内容	評価のベースとなるデータ	統合化の対象*	
			GM	BD
指標1	緑地等の状況(緑地等の割合)	国土数値情報等		○
指標2	法令等に確保されている緑地の状況(継続性のある緑地等の割合)		○	
指標3	エコロジカルネットワークの状況			○
指標4	動植物種の状況(種数に関する調査の状況)	アンケート(実施頻度、継続性等で評価)	○	
指標5	生態系サービスの状況(都市緑化等による温室効果ガス吸収量、透水効果など)	国土数値情報		○
指標6	行政の生物多様性取組状況	アンケート(実施項目数で評価)	○	
指標7	行政計画への住民等の参加状況		○	

※ GM:自治体の取組状況(生物多様性のガバナンスレベル)を評価する統合指標
BD:生態系の状況(自然環境の豊かさ)を評価する統合指標

3. 神戸市の評価

(1) GM 指標 (Governance Management : 自治体の取組状況)

全国 1 位

【評価内訳】

指標 2 法令等に確保されている緑地の状況 (継続性のある緑地等の割合)

○ 次式により算出

「都市計画区域内において法令等に基づき確保されている、生物多様性確保のポテンシャルを有する緑地等内の緑被地・水面等の総面積」÷「都市計画区域面積」×100

- 神戸市の算出結果 (40.54) は全国 17 位であり、調査対象自治体の上位 5% 以内 (a 評価)

指標 4 動植物種の状況 (種数に関する調査の状況)

○ 動植物調査の実施状況を次の点から評価

- ① 継続的に実施しているかどうか
- ② 評価を定期的に行っているかどうか
- ③ 評価の実施頻度 (毎年か、そうでないか)
- ④ 調査地点を固定化しているかどうか
- ⑤ 評価する動植物を固定しているかどうか
- ⑥ 観察、計測方法の記録を保管しているか

- 神戸市は 6 項目中 4 項目が該当し (④⑤が非該当)、調査対象自治体の上位 20% 以内 (c 評価) *。政令指定都市では岡山市が a 評価、横浜市が b 評価。

※ 神戸市の動植物調査は、市域全体での希少種を中心とした動植物種の生息・生育状況の全体像を把握するため、毎年地点を変え、当該地点で確認できた種を全て記録することとしている。

一方、今回の本指標の評価方法では、同一地点での経年変化を把握することを想定し、調査地点、評価種を固定した場合 (上記④及び⑤) を得点としている。本市は上記④⑤で調査地点・評価種を固定しておらずカウントされなかったため、c 評価となった。

指標 6 行政の生物多様性取組状況

- 生物多様性の確保に関する目標を位置づけているか、施策の実施・点検・評価に際し、他部局との間で連携を図るしくみがあるか等、14 項目の該当性を評価
- 14 項目全てに該当し、札幌市等 15 市と並んで全国 1 位 (a 評価)

指標 7 行政計画への住民等の参加状況

- 住民等の意見を計画に反映する取組を実施しているか、NPO 等と連携して外来生物の防除などに取り組んでいるか、生物多様性に関する環境教育を実施しているか等、8 項目の該当性を評価
- 8 項目全てに該当し、さいたま市、西宮市等 39 市と並んで全国 1 位 (a 評価)

- (2) BD 指標 (Biodiversity : 生態系の状況)
全国 84 位 (政令指定都市の中では 2 位)

【評価内訳】

指標 1 緑地等の状況

- 次式により算出

「都市計画区域内における生物多様性確保のポテンシャルを有する緑地等内の緑被地・水面等の総面積」÷「都市計画区域面積」×100

- 神戸市は上位 20%に入っていない。(d又はe評価。この指標は、中山間地や郊外の自治体において数値が高く、上位 20%以内に政令指定都市は入っていない。)

指標 3 エコロジカルネットワークの状況

- 15ha 以上の一体となった緑地があり、その上で、他の緑地が近接しているかどうかを一定の数式で数値化
- 神戸市は上位 20%に入っていない (d又はe評価。政令指定都市では、広島市、札幌市が上位 20%以内 (c評価)。

指標 5 生態系サービスの状況

- 次の指標をそれぞれ偏差値化し、それらを合算して算出

- ① 温室効果ガスの吸収量
- ② 緑で覆われた面積の比率から求められた緑地の冷涼化効果
- ③ 緑地等による透水効果

- 神戸市は全国 15 位 (a評価)。政令指定都市では、広島市が全国 1 位、京都市が全国 6 位。

生物多様性自治体ランク

伊丹・神戸市が全国1位

別の部門で猪名川町も



民間のシンクタンクが発表した「生物多様性に優れた自治体ランキング」で、伊丹市と神戸市が自然環境保全への取り組みを評価する部門で1位に選ばれた。



木々が生き茂る昆陽池公園—伊丹市昆陽池

また、県内では猪名川町も、生態系の豊かさを示す部門で1位となった。ランキングは三菱UFJリサーチ&コンサルティング(東京)が、国土交通省が11月に発表した「都市の生物多様性指標(簡易版)」をもとに、初めて算出。

都市計画区域内の緑地の割合▽動植物の生息状況調査への取り組み▽都市計画の生物多様性への配慮の状況▽取り組みへの住民の参加状況—など7つの指標を分析し、全国665の自治体をランク付けした。

その結果、自然環境保全への取り組みでは、伊丹市と神戸市が川崎市、埼玉県戸田市と並んで1位にランクイン。県内からは西宮市も15位に入った。一方、生態系の豊かさでは、猪名川町をはじめ大阪府能勢町や奈良県宇陀市など計7自治体が1位に。県内では相生、三田両市も21位と評価された。

伊丹市はこれまで、昆陽池公園を中心とした自然環境を保全しようと、市民団体や企業、高校などと連携した活動を実施。また平成

26年度からは生物の専門家を招いた市民講座「伊丹生きものマイスター」を開催し、生物について学ぶことができる場を広く提供してきた。こうした取り組みが3つの指標でトップクラスと分析され、1位という高い評価につながった。

市の担当者は「都市部でありながら猪名川や武庫川、昆陽池など豊かな自然がある。市民にもより生物の多様性について学んでもらい、自然環境の再生、保全を進めたい」としている。